

冬の情景、そして春へ

—モネから横山大観まで—

広報資料(プレスリリース)

2016年11月30日(水)ー2017年4月2日(日)

*会期中無休 <年末年始も休まず開館します!>



写真1

展覧会「冬の情景、そして春へ」展示風景



上原近代美術館
Uehara Museum of Modern Art

冬の情景、そして春へ—モネから横山大観まで—

木々は葉を落とし、雪が野山を覆う冬。モネ《雪中の家とコルサース山》に描かれた北欧の雪山は美しい輝きを放ち、横山大観《雪後》には冷たく張り詰めた静寂が広がります。そして、冬の冷たい大地の下には、生命の芽吹く穏やかな春が少しずつ目覚めます。シスレー《サン＝クルー近くのセヌ川、増水》に描かれた雪解けの川には、近付いてくる春の足音が聞こえてくるようです。雪に閉ざされた冬から暖かい春へ。本展では、モネ、シスレー、安井曾太郎、岡鹿之助、横山大観、上村松園らが描いた冬から春の情景をご紹介します。

開催要項

- 展覧会名 冬の情景、そして春へ—モネから横山大観まで—
- 会 期 2016 年 11 月 30 日(水)—2017 年 4 月 2 日(日)
＊会期中無休
＊年末年始も休まず開館します

常設展のみ中間展示替えあり
前期：2016 年 11 月 30 日(水)—2017 年 1 月 30 日(月)
後期：2017 年 1 月 31 日(火)—2017 年 4 月 2 日(日)
- 開館時間 9:00-17:00 (入館は 16:30 まで)
- 入 館 料 大人 800 円／小・中学生 400 円(団体 20 名以上 10%引)
毎週土曜日は小・中学生、高校生は無料です
- 会 場 公益財団法人上原美術館 上原近代美術館 第 1 展示室
- 出品作家 クロード・モネ、アルフレッド・シスレー、アルベール・マルケ、梅原龍三郎、安井曾太郎、岡鹿之助、横山大観、上村松園、松林桂月、鎭木清方、小林古径、郷倉千靱、小倉遊亀、伊東深水 計 14 作家
- 出品点数 18 点(前期 16 点、後期 16 点)
- 主 催 公益財団法人 上原美術館

関連イベント

- 展示解説（ギャラリートーク）

展示されている作品について学芸員が解説します。

2016 年 12 月 17 日(土)、2017 年 1 月 21 日(土)、2 月 18 日(土)、3 月 18 日(土)

各日とも 11:00、14:00 より（所要時間 30 分）

事前申込不要 | 開始時間に第 1 展示室集合 | 要入館券



前展覧会のギャラリートークのようす

お知らせ

- 年末年始も休まず開館します
- 上原仏教美術館は 2017 年 11 月にリニューアル・オープン予定です
- 第 2、第 3 展示室にて公益財団法人上原美術館の収蔵作品を展示しております

展示室風景

画像データが必要な場合は、美術館へご連絡ください

第1展示室



第2展示室



第3展示室



主な出品作品

画像データが必要な場合は、美術館へご連絡ください

第1展示室

冬の情景、そして春へ—モネから横山大観まで—

クロード・モネ

《雪中の家とコルサース山》
せっちゅう いえ さん

1895 年冬から春にかけて、モネはノルウェーを訪れました。そこで制作された本作は、コルサース山のふもとにある集落を描いています。そこで制作された本作は、コルサース山とそのふもとの集落を描いています。日本の浮世絵に関心を寄せていたモネは、一面雪に覆われた山を富士山に、その周囲の家々を日本の家屋の姿に重ね見たといいます。画面からはモネが微妙な色彩と諧調をとらえようと、降り積もった雪の表情を丹念に探求していることがうかがえます。



クロード・モネ
《雪中の家とコルサース山》1895 年

横山 大観《雪後》
よこやま たいかん せつご

画面に広がる雪山、凍りついたような木々、水面の鳥たち、全てが静かにたたずんでいます。そこには雪が降った後の一抹の静寂が、表現されているかのようです。水墨画のように抑えた色彩は、全体に冷たい空気感を漂わせ、陰しい冬の寒さを伝えています。



横山大観《雪後》1944(昭和 19)年頃

上村 松園《初雪》
うえむら しょうえん はつゆき

冬の本格的な訪れを告げる初雪。ここでは、手を袖深く引き込める何気ない仕草から、寒さに満ちた空気感が巧みにあらわされています。女性のやわらかい表情には、ちらちらと降る淡い雪を楽しむかのような微笑がわずかに浮かんでいます。日常を描いた一場面に、松園ならではの女性美と季節を愛でる心情が投影されているかのようです。



上村松園《初雪》1937(昭和 12)年

やす い そう た ろ う つ ぼ す い せ ん
 安井 曾 太 郎 《ペルシャ 壺 と 水 仙》

ペルシャ壺にたっぷりと活けられた水仙の花が、早春の訪れを告げています。鮮やかに彩られた白と黄色の花、黒い線で縁取られたまっすぐに伸びる青々とした葉は、厳しい冬から咲きはじめる水仙の力強い生命力をあらわすかのようです。



安井曾太郎《ペルシャ壺と水仙》
 1955(昭和 30)年

まつ ばやし けい げ つ と う げ ん す
 松 林 桂 月 《桃 源 図》

本作では「桃源郷」の語源となった中国故事を題材に、桃花が咲く春の農村を描いています。花の香りが村中に漂うかのように、ふんわりと淡く彩られた桃花からは、春の訪れが感じられます。



松林桂月《桃源図》
 1950(昭和 25)年頃

第2展示室

テーマ：中国—華やかな美



写真 6

中国・宋時代に造られた《菩薩立像》
ぼ さつりゅうぞう

宝冠を付けた菩薩が手に持つのは、供物(または宝珠)を載せた盤です。腰をやや左にひねった姿の本像は、台座を含む像のほぼ全体を一材から彫っています。美しい彩色がほどこされた菩薩は、梅原や安井らによる油彩画とも調和し、華やかな空間を生み出しています。

うめはら りゅうざぶろう
梅原 龍三郎

北京時代の作品を堪能できます！

1939(昭和 14)年の夏に初めて北京を訪れて以降、その街並が放つ鮮烈な色彩に魅了された梅原は、「四方の眺め美しく誠に夢の國なり」、「北京の四十二日夢の如し」と北京での滞在を日記にしたためています。その後4年の間に5回北京を訪れた梅原は、北京飯店の509号室に滞在し、朝はその窓外に広がる長安街や紫禁城を描き、午後には「年若き清楚な姑娘(中国の若い娘)たちを宿に招き入れ描きました。

そのほか、鮮やかな北京の街並みをとらえた《北京長安街》、中国の若い女性を描いた《姑娘》、《姑娘彈琵琶図》、北京滞在中に手に入れた萬曆赤絵壺が描かれた《薔薇図》を展示しています。

第3展示室

第3展示室では、西洋絵画を中心とした上原コレクションをお楽しみいただけます。



写真7

【広報に関するお問い合わせ】

上原近代美術館 担当：土屋、土森、齊藤

Tel：0558-28-1228 Fax：0558-28-1227

E-mail：uehara-m@i-younet.ne.jp

Web：www.uehara-modernart.jp

〒413-0715 静岡県下田市宇土金 341 公益財団法人上原美術館 上原近代美術館



上原近代美術館

Uehara Museum of Modern Art